

# 筑後市内遺跡群X V

福岡県筑後市大字徳久所在遺跡の調査  
筑後市文化財調査報告書  
第105集

2012

筑後市教育委員会

徳久アサミノ遺跡第2次調査  
徳久アサミノ遺跡第3次調査

2012

筑後市教育委員会

## 序

本報告書は、平成 23 年度に実施しました徳久アサミノ遺跡第 2 次調査及び第 3 次調査の成果をまとめたものです。

調査では、西海道駅路の傍らにある集落跡などが検出され、奈良時代から平安時代において律令制度による国家的な土地利用がうかがえる資料を確認しました。

本報告書が地域における文化財保護の理解を深め、学術研究の一助となることを願っております。

今回の調査にあたって、多大なるご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月

筑後市教育委員会  
教育長 高巢 一規

## 例言

1. 本書は平成 23 年度に筑後市教育委員会が行った徳久アサミノ遺跡第 2 次調査・第 3 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第 I 章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は上村英士が作成し、遺物の実測・デジタルトレースは株式会社埋蔵文化財サポートシステム福岡支店に、遺構のデジタルトレースは上村が行い、委託業務の監理及び管理は筑後市教育委員会が行った。
4. 本書に使用した遺構の写真撮影は上村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は世界測地系を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2008 に準拠している）。  
SD - 溝　SK - 土壇　SP - ピット　SF - 道路状遺構　SX - 不明遺構
7. 本書の執筆は上村が行った。

## 目次

I . 調査経過と組織	1
II . 位置と環境	2
III . 調査成果	3
(徳久アサミノ遺跡第 2 次調査)	3
(徳久アサミノ遺跡第 3 次調査)	6
IV . 考察	8

写真図版

抄録

## I . 調査経過と組織

### (徳久アサミノ遺跡第2次調査)

徳久アサミノ遺跡第2次調査は筑後市大字徳久字アサミノに所在する。当該地は分譲地であり、平成22年度に予備調査により全域に遺跡を確認し、造成工事に伴う新設道路部分の本調査を行った。その後、当該地内の各分譲地に関しては、文化財保護法第93条の提出義務を促し、平成23年5月2日に開発原因者である辻本公平氏から法93条及び発掘調査依頼書が筑後市教育委員会に提出され、協議の結果、個人専用住宅建設に伴う市内遺跡国庫補助金事業として、担当課である社会教育課社会教育係による現地での本調査を実施した。当該地の約60㎡について平成23年5月19日から現地での本調査を実施し、平成23年5月20日に現地調査を終了した。平成23年度に整理作業及び報告書作業を行い、平成24年3月31日に全ての調査を完了した。

### (徳久アサミノ遺跡第3次調査)

徳久アサミノ遺跡第3次調査は筑後市大字徳久字アサミノに所在する。当該地は分譲地であり、平成22年度に予備調査により全域に遺跡を確認し、造成工事に伴う新設道路部分の本調査を行った。その後、当該地内の各分譲地に関しては、文化財保護法第93条の提出義務を促し、平成23年7月1日に開発原因者である浜崎喜弘氏から法93条及び発掘調査依頼書が筑後市教育委員会に提出され、協議の結果、個人専用住宅建設に伴う市内遺跡国庫補助金事業として、担当課である社会教育課社会教育係による現地での本調査を実施した。当該地の約60㎡について平成23年8月12日から現地での本調査を実施し、平成23年8月19日に現地調査を終了した。平成23年度に整理作業及び報告書作業を行い、平成24年3月31日に全ての調査を完了した。

発掘調査に関わる調査組織は以下のとおりである。

#### 1) 平成23年度

総括	教育長	高巢 一規
	社会教育課長	高井良清美
	文化スポーツ担当係長	村上 一彦
	(文化財専門職)	小林 勇作
	(文化財専門職)	上村 英士 (調査担当)
	(文化財学芸員)	吉村由美子

#### 3) 発掘調査・整理作業参加者 (第2次調査及び第3次調査)

井上 むつ子 角 里子 加藤 礼子 隈本 干城 原 秋子 渡辺 泰子

## Ⅱ．位置と環境

### ・地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿兒島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

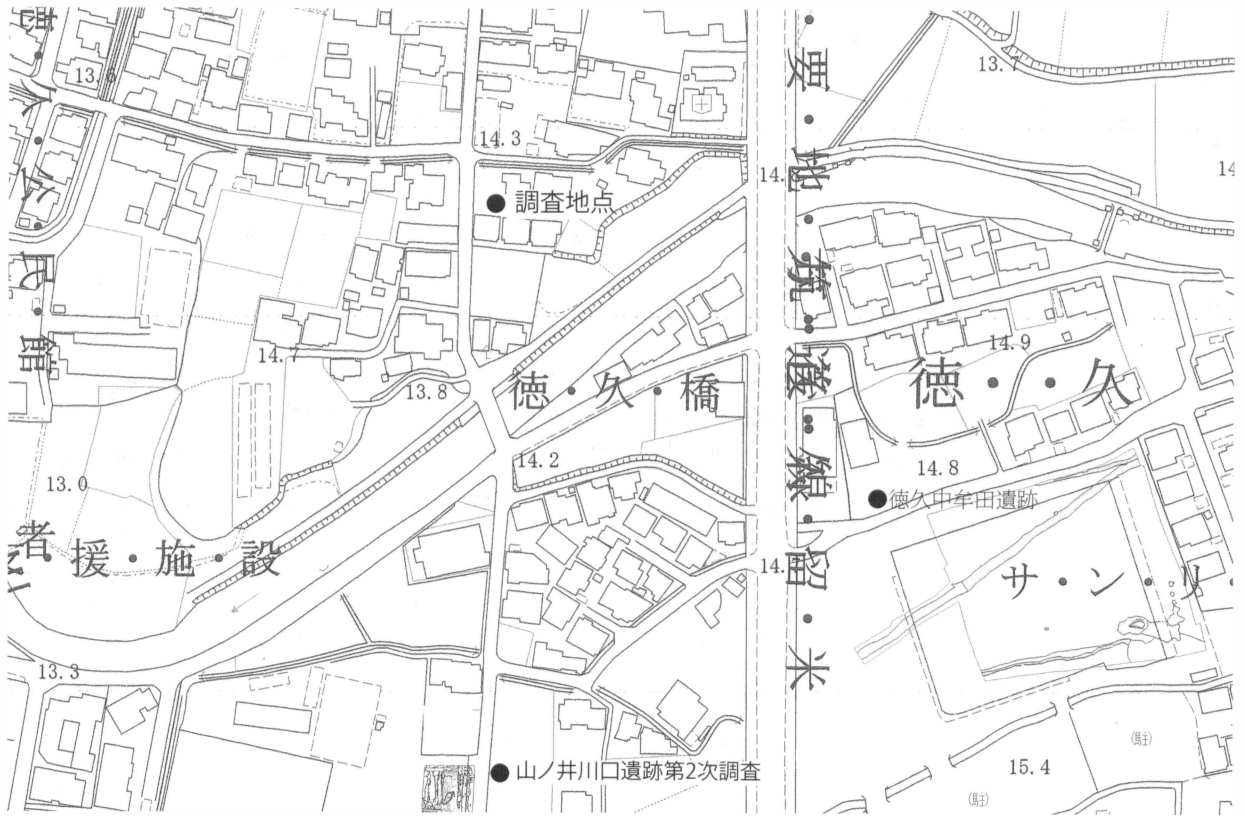


Fig.1 調査地点位置図 (1/3000)



Fig.2 調査地点位置図 (1/1000)

### Ⅲ. 調査成果 (徳久アサミノ遺跡第2次調査)

#### (1) はじめに

平成23年5月16日から重機による表土剥ぎに着手し、調査区は遺構面に影響のある住宅建設部分である。調査は平成23年5月25日に埋め戻し及び現場撤収を終え現場引渡しを行った。

遺構の掘削は表土から遺構面までを(有)徳光建設(代表 橋爪徳光)に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行った。

#### (2) 基本土層

層位は、約30cmの盛土直下に遺構面を検出し、暗茶褐色土の地山に切り込む形で遺構を検出している。遺構は竪穴住居、掘立柱建物、ピットを確認している。

#### (3) 検出遺構

竪穴住居

2SI01 (Fig.3 Pla2・3)

調査区東端で一部のみ検出した竪穴住居で大部分は調査区外へ延びる。検出長3.0m、床面までの深さ約0.20m、貼り床は約0.05m程度で全面ではなく、中央に近い部分のみ確認している。埋土は黒色系で、掘り方はややフラットである。軸はほぼG.Nに沿っている。遺物は土師器:甕を出土している。

掘立柱建物

2SB15 (Fig.4 Pla4)

調査区南端で検出した1間×3間以上の掘立柱建物である。建物軸は桁行でN-68°49'7"-Wを測る。柱穴平面形態はほぼ円形で、径は約0.2mから0.35mを測る。柱間総距離は桁行で約4.0m、柱穴間はa-b間約1.8m、b-c間約1.2m、c-d間約1.2m、d-e間約1.5mを測る。遺物はa(S-10)土師器:蓋、甕、坏、b(S-8)須恵器:坏 土師器:甕、坏×皿、c(S-11)土師器:甕、d(S-12)土製品:粘土塊、e(S-13)土師器:甕、坏×皿を出土している。

ピット

2SP4 (Fig.6 Pla1・2)

調査区北端で検出した円形のピットである。直径約0.5m、深さ約0.4mを測る。遺物は土師器:蓋、甕、坏 土製品:粘土塊を出土している。

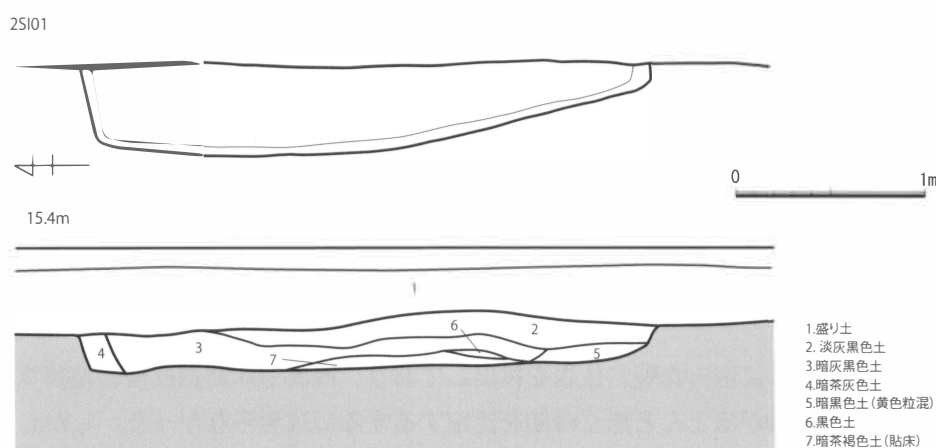


Fig.3 2SI01 遺構実測図 (1/40)

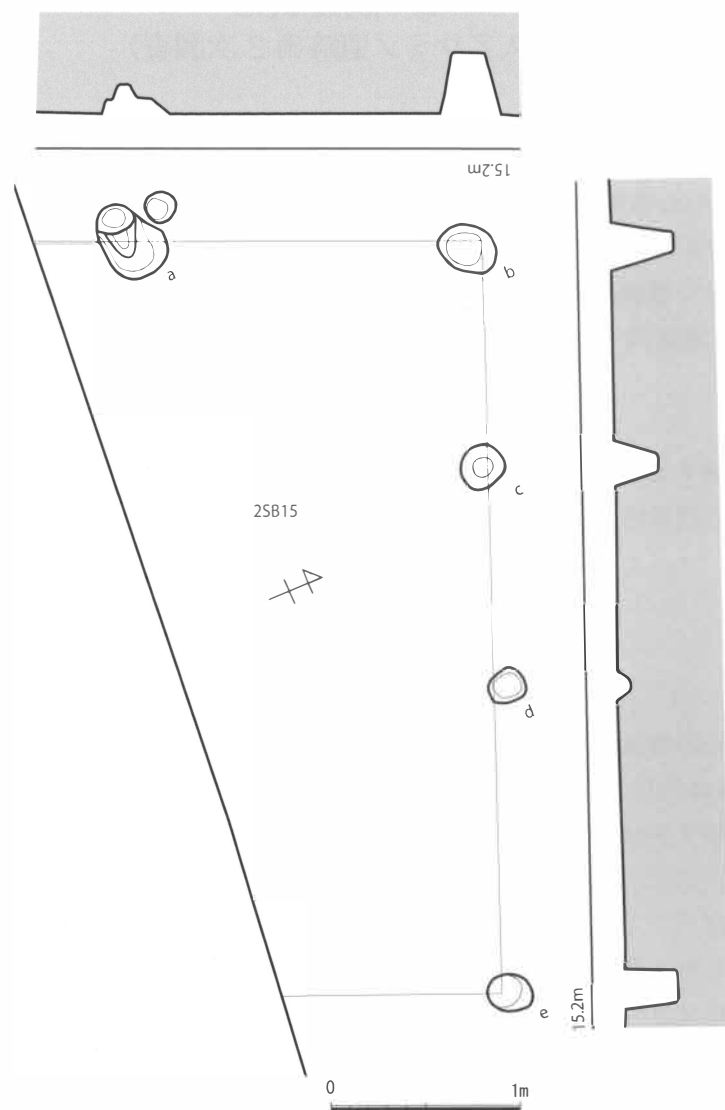


Fig.4 2SI15 遺構実測図 (1/40)

(4) 出土遺物

2SB15 (a, S -10) (Fig.4 Pla.8)

土師器

蓋 (1) 口縁部片で調整はヨコナデ、外面にミガキに近似する痕跡が残る。

胎土がよく精選されており、橙色を呈する。

2SP4 (Fig.6 Pla.8)

土師器

蓋 (2) 口縁部から体部にかけての片で調整はヨコナデ、外面上端に回転ヘラケズリを施す。胎土がよく精選されており、暗橙色を呈する。

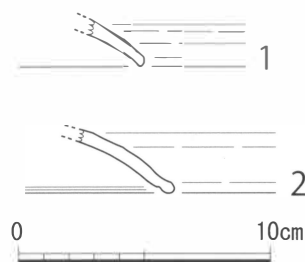


Fig.5 出土遺物 (1/3)

(5) 小結

調査区からは、ほぼGNに沿った竪穴住居を検出しており、西海道駅路造成後の地割りに沿った建物と考えられるが、出土遺物がほとんど無く時期を比定するするには至らなかった。しかし、西海道使用時期である8世紀代の所産であると考えられ、住居規模を勘察しても矛盾するものではない。掘立柱建物については方位がかなり西へ振れており、柱穴規模から見ても西海道廃絶後の平安時代中期以降のものと考えられる。



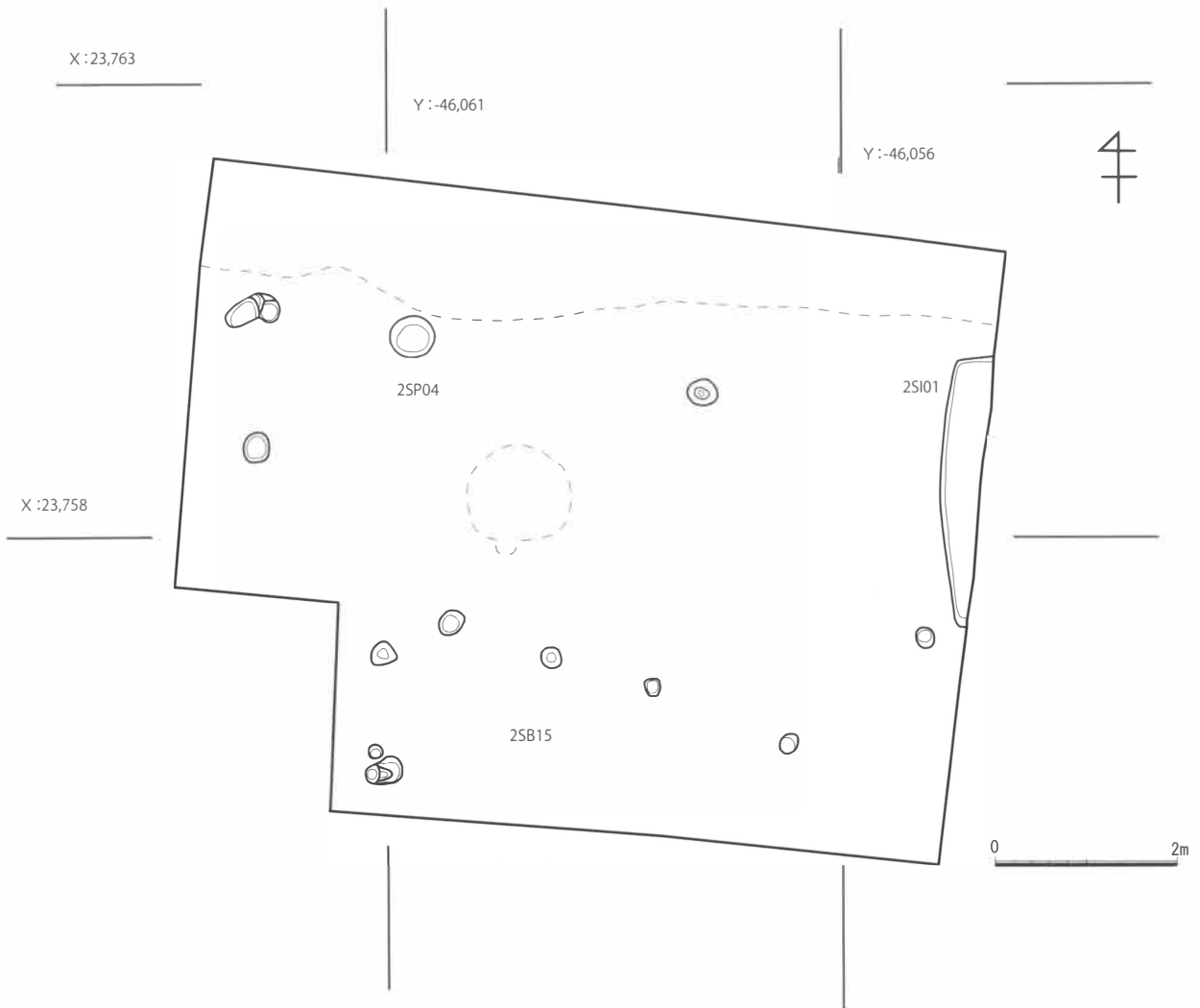


Fig.6 遺構全体図 (1/80)

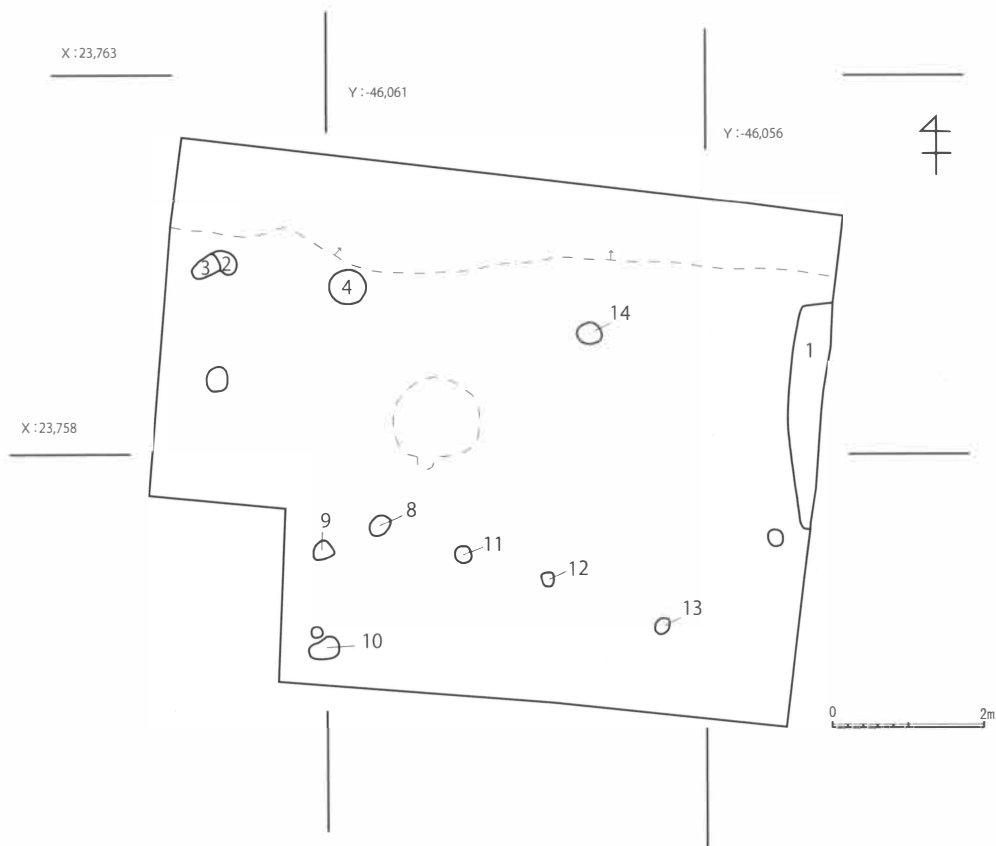


Fig.7 遺構略側図 (1/100)

## (徳久アサミノ遺跡第3次調査)

### (1) はじめに

平成23年8月12日から重機による表土剥ぎに着手し、調査区は遺構面に影響のある住宅建設部分である。調査は平成23年8月19日に埋め戻し及び現場作業撤収を終え現場引渡しを行った。

遺構の掘削は表土から遺構面までを(有)徳光建設(代表 橋爪徳光)に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行った。

### (2) 基本土層

層位は、約30cmの盛土直下に遺構面を検出し、黄褐色粘土の地山に切り込む形で遺構を検出している。遺構は土壇、ピットを確認している。

### (3) 検出遺構

土壇

3SK01 (Fig.8 Pla6・7)

調査区北端で検出した方形に近い土壇で北側は調査区外へ延びる。検出南北長約1.25m、幅約1.4m、最大深さ約0.5mを測る。底部に一部盛り上がりが見られるが、断面はU字状を呈する。遺物は須恵器：皿 土師器：甕、坏、坏×皿 土製品：粘土塊を出土している。

ピット

3SP04 (Fig.9 Pla5)

円形のピットで直径約0.25m、深さ約0.1mを測る。遺物は土師器：坏を出土している。

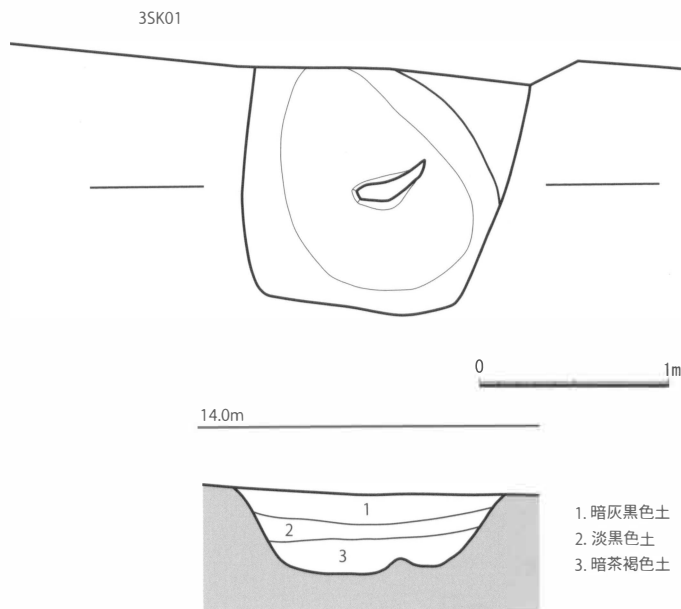


Fig.8 3SK01 遺構実測図 (1/40)

### (4) 出土遺物

3SK01 (Fig.11 Pla8)

須恵器

皿 (1) 口径14.6cm、器高2.25cm、底径11.8cmを測る。底部調整は回転ヘラ切り後、ナデ、板状圧痕が残る。体部はヨコナデ、内底はナデ。焼成還元良好で灰色を呈する。

坏 (2) 底部の小破片で外面に×印のヘラ記号を施している。胎土はよく精選されており橙色を呈する。

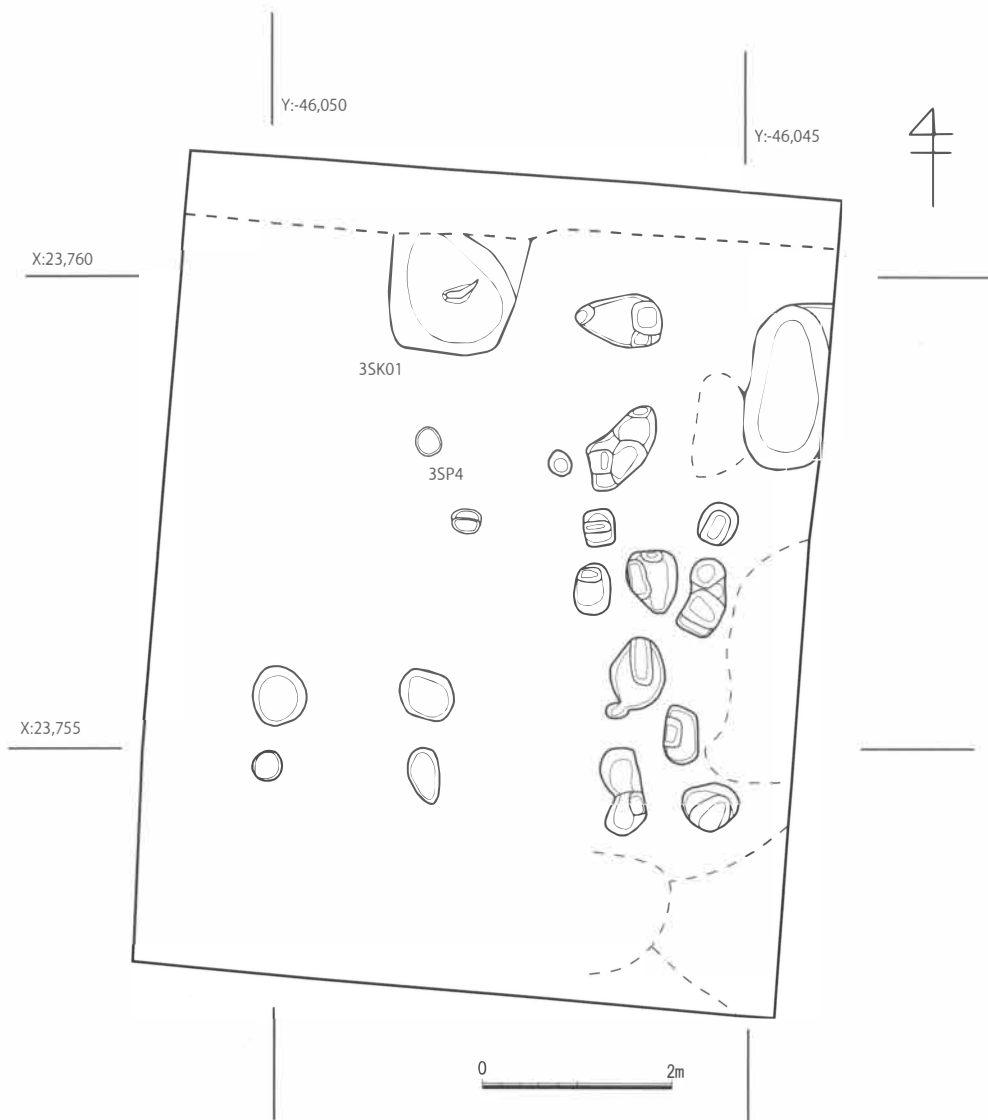


Fig.9 遺構全体図 (1/80)

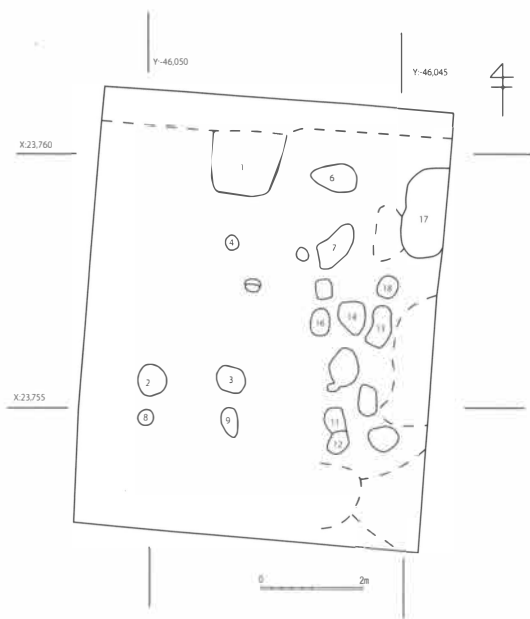


Fig.10 遺構略側図 (1/150)

3SP04 (Fig.11 Pla8)

土師器

坏 (3) 体部片で器壁が薄く、胎土もよく精選されているが、磨耗が著しく調整は不明。焼成不良。

(5) 小結

主要な遺構は 3SK01 が挙げられる。出土遺物が僅少であるが、1・2次調査成果から考えると 8 世紀代の所産であると推定される。

調査区東半分で検出されたピット群については、埋土の状況から攪乱や現代のものも判断している。また、調査区中央に位置する S -2・3 は出土遺物等から古代の柱痕の可能性が考えられるが、対応する柱穴が確認できなかったため、ピットとして扱うに留めている。



Fig.11 出土遺物実測図 (1/3)

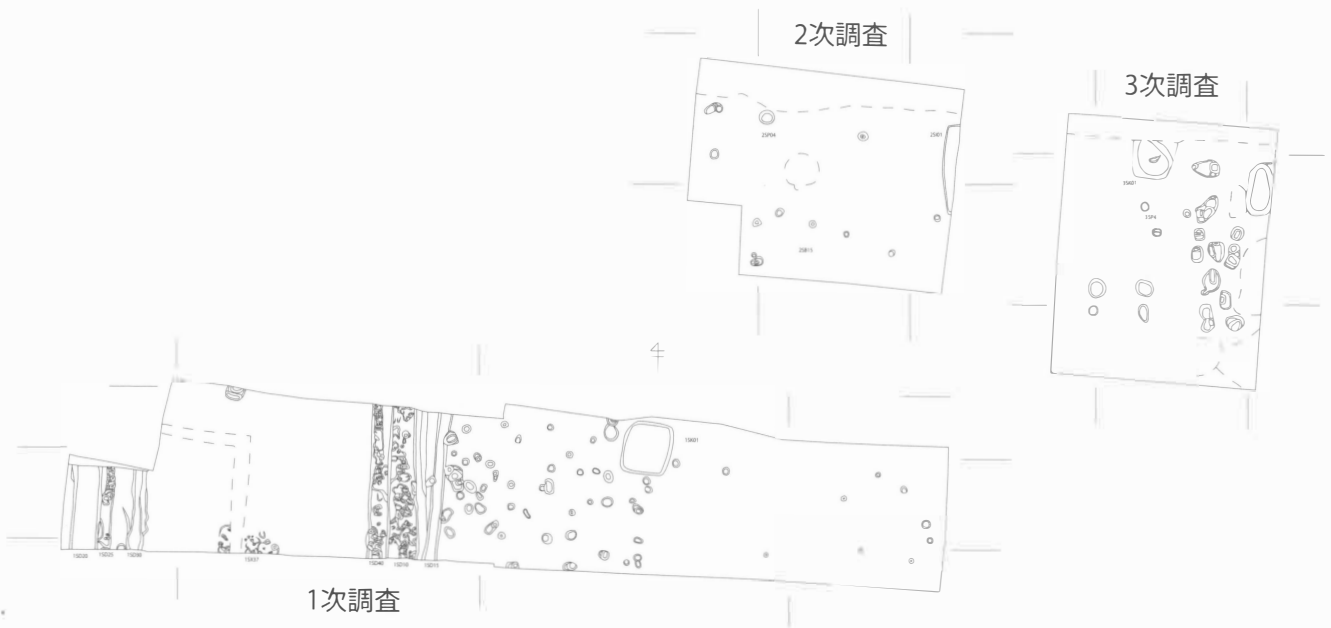


Fig.12 徳久アサミノ遺跡第1次～3次調査遺構配置図(1/250)

#### IV. 考察

今報告である徳久アサミノ遺跡第2次調査及び3次調査南側を平成22年度に第1次調査として報告している。Fig.12に図示したとおり、これらの3箇所の調査は隣接している。第1次調査からは西海道駅路本体を検出しており、今次調査(第2・3次)は西海道傍に位置することから関連遺構及び遺物を検出することが想定された。しかし、当該期における遺構は第2次調査で竪穴住居1棟、第3次調査では土壇1基のみであった。今次調査から北側に展開する羽犬塚山ノ前遺跡等や前津丑ノマヤ遺跡、羽犬塚中道遺跡、羽犬塚射場ノ本遺跡のように西海道傍で多くの当該期住居等を確認している様相とは趣が異なる。狭小な調査であるため断言はできないが、今次調査周辺から南は低地となり、山ノ井川口遺跡、山ノ井南野遺跡等の低地上に造成された道路遺構傍では当該期の遺構検出例が少ない様子がみられることから道路は直線的に敷設されるものの、住居及び各施設などは今次調査より北側の台地上に展開していたと考えられる。

当市域では8世紀初頭までは住居等の方位が東へ振れる傾向にあり8世紀前半代に西海道駅路の南北ラインに合わせるように傾きが変更される。2次調査の竪穴住居はほぼGNに沿っており、8世紀前半代以降の住居であると想定できる。また、3次調査の土壇についても同様の見方ができる。

今次調査のすぐ南には山ノ井川が西海道駅路を断ち切るように東西に流れる。山ノ井川自体は中世以降の人工河川であるが、中世以前も周辺地形から見て低湿地であったことがうかがえ、河川を造る際も考慮されたものと考えられる。西海道駅路が南北に直線的に造作される際の低湿地での造成及び渡岸の方法について徳久アサミノ遺跡周辺での今後の調査成果に期待するものである。

#### 参考文献

- 『羽犬塚山ノ前遺跡』筑後市文化財調査報告書第48集 2003 筑後市教育委員会
- 『前津丑ノマヤ遺跡』筑後市文化財調査報告書第80集 2007 筑後市教育委員会
- 『筑後市内遺跡群VI』筑後市文化財調査報告書第65集 2005 筑後市教育委員会
- 『羽犬塚射場ノ本遺跡』筑後市文化財調査報告書第17集 1995 筑後市教育委員会
- 『筑後市内遺跡群IV』筑後市文化財調査報告書第45集 2005 筑後市教育委員会
- 『山ノ井南野遺跡II』筑後市文化財調査報告書第59集 2005 筑後市教育委員会
- 『筑後市内遺跡群XI』筑後市文化財調査報告書第85集 2008 筑後市教育委員会

Tab.1 遺構番号・出土遺物台帳

徳久アサミノ遺跡第2次調査				
S-番号	遺構番号	遺構内容	切合関係(新→旧)	出土遺物
1	2SI01	竪穴住居		土師器：甕
2		ピット	3→1	土師器：甕、坏
3		ピット	3→2	土師器：甕、坏×皿
4	2SP04	ピット		土師器：蓋、甕、坏 土製品：粘土塊
5		ピット		土師器：皿、甕
6		攪乱		土師器：甕
7		攪乱		
8		ピット		須恵器：坏 土師器：甕、坏×皿
9		ピット		土師器：甕、坏×皿 土製品：粘土塊
10		ピット		土師器：蓋、甕、坏
11		ピット		土師器：甕
12		ピット		土製品：粘土塊
13		ピット		土師器：甕、坏×皿
14		ピット		土師器：甕、皿
15	2SB15	掘立柱建物	8・10・11・12・ 13	
表土				土師器：片 陶磁器：白磁片
徳久アサミノ遺跡第3次調査				
S-番号	遺構番号	遺構内容	切合関係(新→旧)	出土遺物
1	3SK01	土壌		須恵器：皿 土師器：甕、坏、坏×皿 土製品：粘土塊
2		ピット		須恵器：坏×皿 土師器：甕、坏 土製品：粘土塊
3		ピット		土師器：甕 土製品：粘土塊
4	3SP04	ピット		土師器：坏
5		欠番		
6		ピット		土師器：甕、坏×皿 土製品：粘土塊
7		ピット		土師器：甕、坏 硅化木
8		ピット		土師器：坏×皿
9		ピット		土師器：片
10		欠番		
11		ピット		土師器：片
12		ピット		須恵器：甕 土師器：片
13		ピット		須恵器：甕 土師器：坏×皿
14		ピット		土師器：坏
15		欠番		
16		ピット		土師器：坏×皿
17		ピット		須恵器：壺 土師器：甕、坏 土製品：粘土塊
18		ピット		土師器：片
表土				土師器：甕、大坏

# 写真図版

Pla.1



徳久アサミノ遺跡第2次調査検出状況（東から）



完掘状況（東から）



完掘状況 (西から)



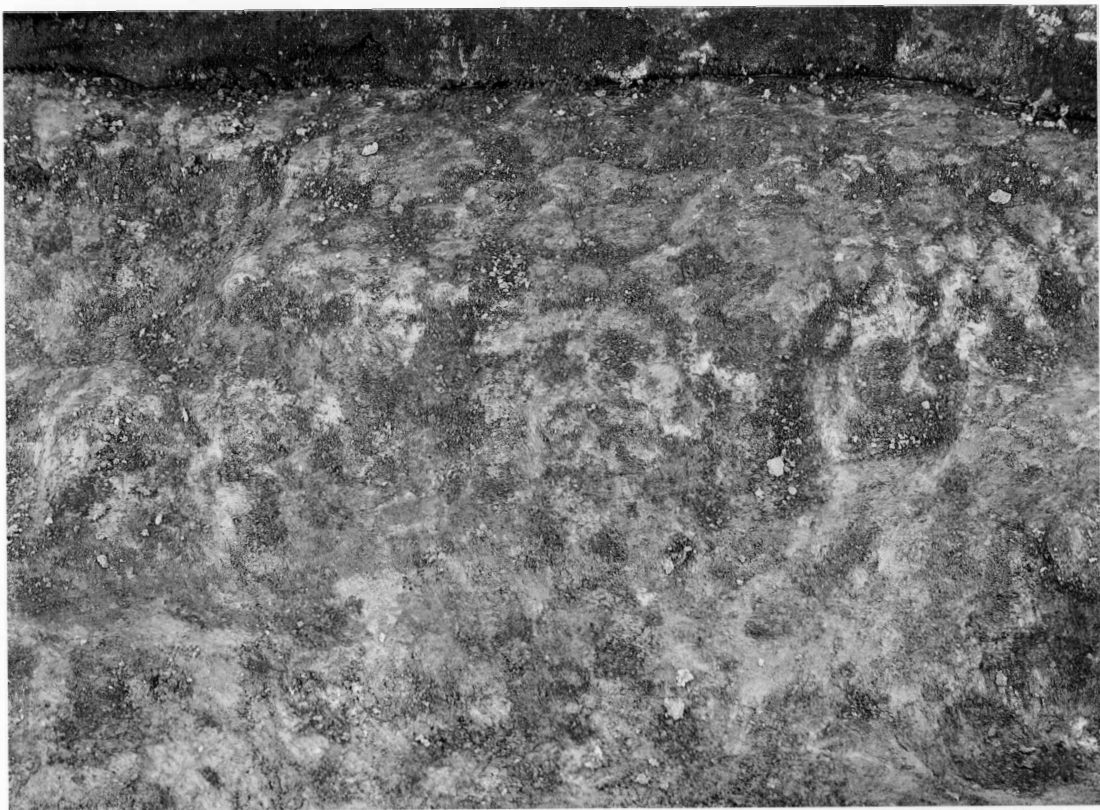
2SI01 検出状況 (南から)



Pla.3



2SI01 完掘状況 (南から)



2SI01 床面状況 (西から)



2SB 15 検出状況 (南東から) .jpg



2SB15 完掘状況 (南東から)



徳久アサミノ遺跡第3次調査検出状況（南から）



完掘状況（南から）



完掘状況 (南東から)



3SK01 検出状況 (北から)

Pla.7



3SK01 土層断面 (北から)



3SK01 完掘状況 (北から)



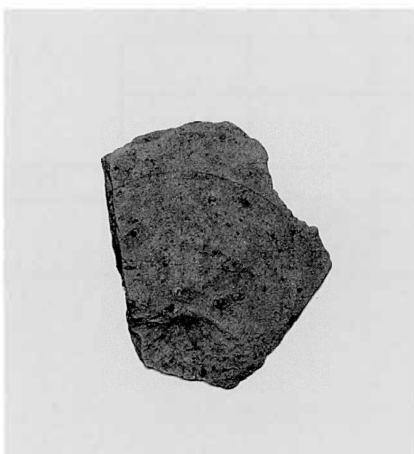
2次-1



2次-2



3次-1



3次-2



3次-3

筑後市文化財調査報告書 第 105 集

**筑後市内遺跡群XV**

平成 24 年 3 月 31 日

発行 筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井 898

TEL 0942-53-4111

印刷 大同印刷株式会社

佐賀市久保泉町大字上和泉 1848-20

TEL 0952-71-8520 (代)